（様式３）

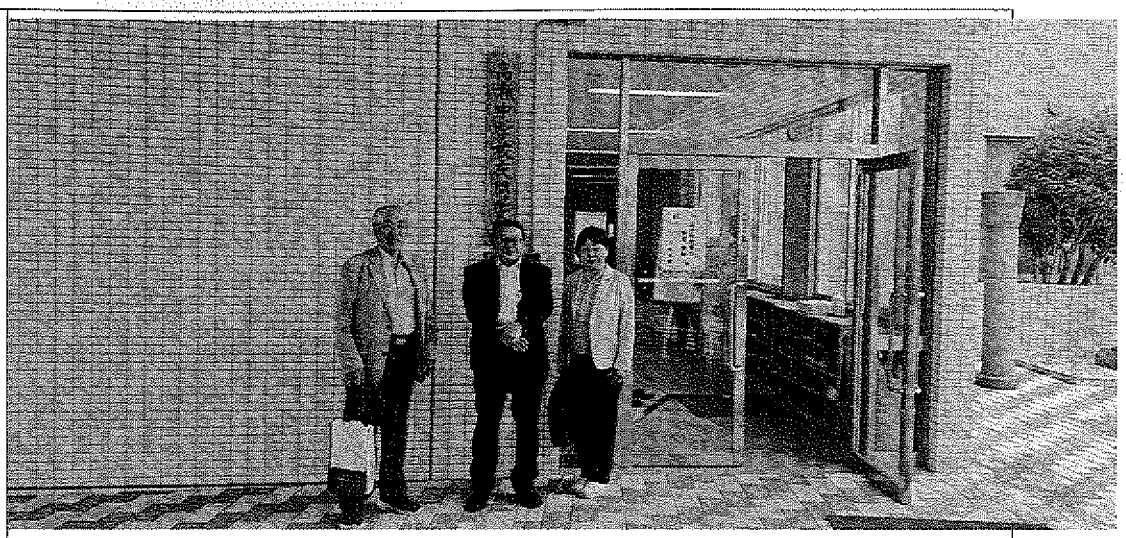
政務活動（参加・実施）報告書

令和　７年　６月　３日

会　　派　新緑

参　加　者　喜多・竹田・山田

政務活動先（目的地）	香川県三豊市　・　高知県黒潮町				
開催団体等	三豊市教育委員会及び高瀬中学校 黒潮町及び黒潮町観光ネットワーク				
政務活動期間	令和７年５月２６日～２８日				３日間
政務活動項目（名称等）	不登校特例校の夜間中学校・津波避難タワーと防災ツーリズム				
政務活動参加者	喜多新二	竹田秀泰	山田隆子		
					計　３名
全体参加者数	三豊市　８名　・　黒潮町　７名				
政務活動の目的・結果等の概要・所見	視察報告　三豊市夜間中学校 ２０２２年に開校した香川県三豊市高瀬中学校（夜間中学）は、１０代から８０代の多世代の方の学び直しの他、学齢期の生徒を受け入れる全国初の不登校特例校の指定を受けた学校であります。不登校やヤングケアラー及び近年増加する外国人などに学びや居場所を提供する新しい学校の在り方と試みを視察する事により、本市における不登校やヤングケアラーなどの対応について居場所から一歩踏み込んだ、次の目標を児童自らが見つけ進めるための学習環境を提供するための学校は、立ち止まらざる児童の背中を押してあげる有効なものであると考えております。また近年の人手不足により増加すると想定される外国人の学校として多国間コミュニティの窓口として有効であると考え視察調査してきました。				

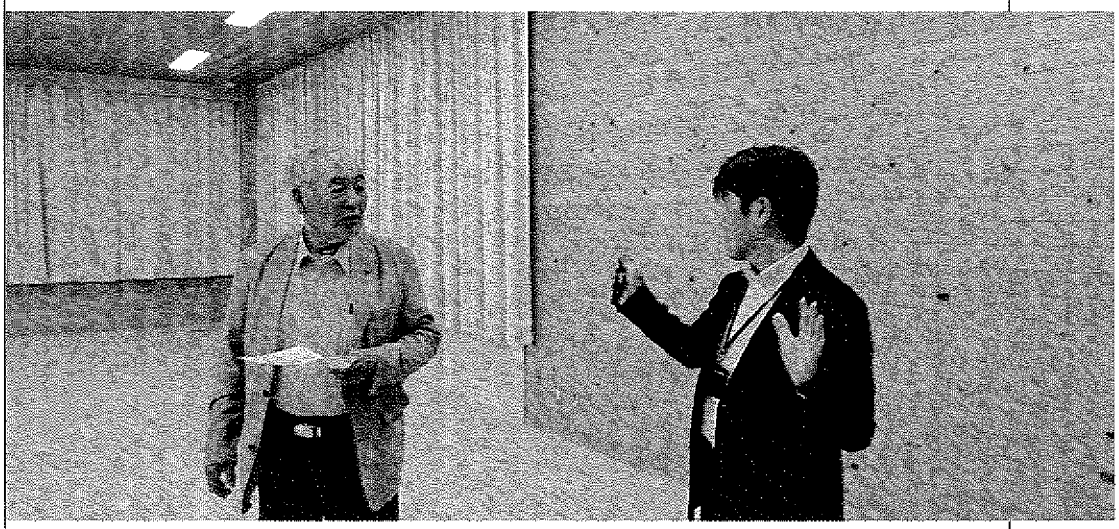


教育内容と特色

授業は週５日、１日４時間程度行われ、国語、数学、英語などの基礎科目に加え、日本語指導や生活支援も提供されています。生徒の年齢や経験、勤労状況に応じた柔軟な教育が行われており、個々のニーズに対応した学習環境が整えられています。修了すれば中学校卒業資格を得られ卒業生の進路については、高校及び夜間高校へ進学したものや就職するなど、立ち止まる児童を見捨てない学校として「誰一人取り残さない」学校の在り方であると思いました。

地域との連携と行事

三豊市の夜間中学では、地域との交流を深めるための行事も積極的に行われています。例えば、七夕祭りなどの伝統行事を通じて、生徒たちは地域の文化に触れ、交流を深めています。



夜間学校と不登校との関連性

起立性調節障害は、不登校の要因の一つとされており、不登校の約30～40%が起立性調節障害を有しているとされています。昼夜逆転

	の生活サイクルには、理由が様々あると思うが、夜間中学校は、性質上有効なものであると考えます。 課題点 校長や教員が残業して対応している部分があり、教員の労働環境としては近年の働き方改革とは逆行する部分があり、夜間中学運営ならではの配慮は必要であると考える。また夜間中学とは言え独立した一つの学校であり、施設や教員などは全て新規で設置を考える方が望ましいと言える。この事から本市の夜間中学校における学齢期児童を受け入れる対応策については、規模適正化を進める中で学びの多様性確保を視野に入れる事が重要であると考えます。 視察報告　黒潮町津波避難タワー

佐賀地区津波避難タワーの概要

【タワー建設箇所（浜町地区）の津波想定】

◇浸水深：18m　◇津波到達時間（30cm）：19分
*避難対象範囲は、津波到達時間(30cm)16分で算出

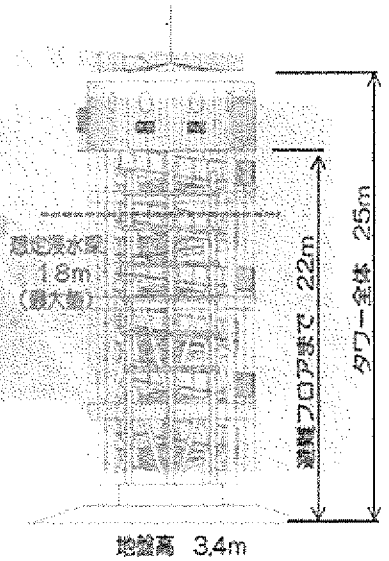
完成年度

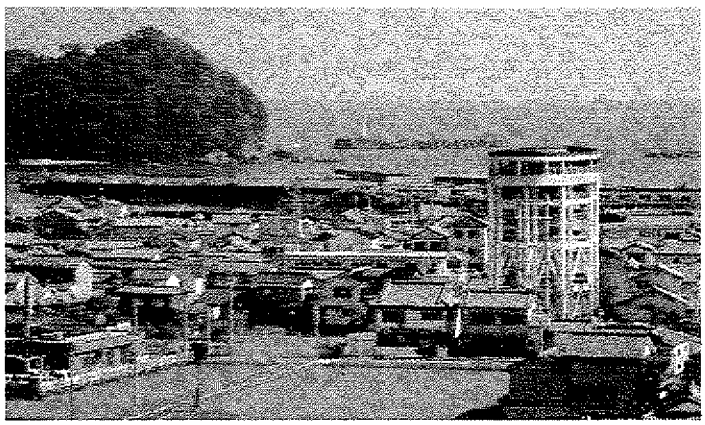
◇平成29年3月竣工

【タワーの諸元】

◇建設場所：福岡市黒潮町佐賀（浜町地区）
◇構　造：鉄骨造（S造）
◇避難フロア面積：233㎡
◇避難収容人数　：230人　<※1m2／1人で換算>
◇タワー高さ（全　体）　：25m
◇　〃　（避難フロア）：22m
◇昇降施設：（階　段）幅員1.5m　段数140段
（スロープ）幅員1.6m　延長240m
◇基礎構造：現場打ちコンクリート杭（L=29.5m）
φ1200：22本、φ1500：4本
◇建設費用：約590,000千円
◇その他設備
・ソーラー式照明：114基
・緊急用救護スペース（ヘリポバリング）：屋上に設備
・漂流物対策用緩衝柱：南北に2箇所（計6本）
・落雷抑制型避雷針：屋上に設置

【タワーの高さ】

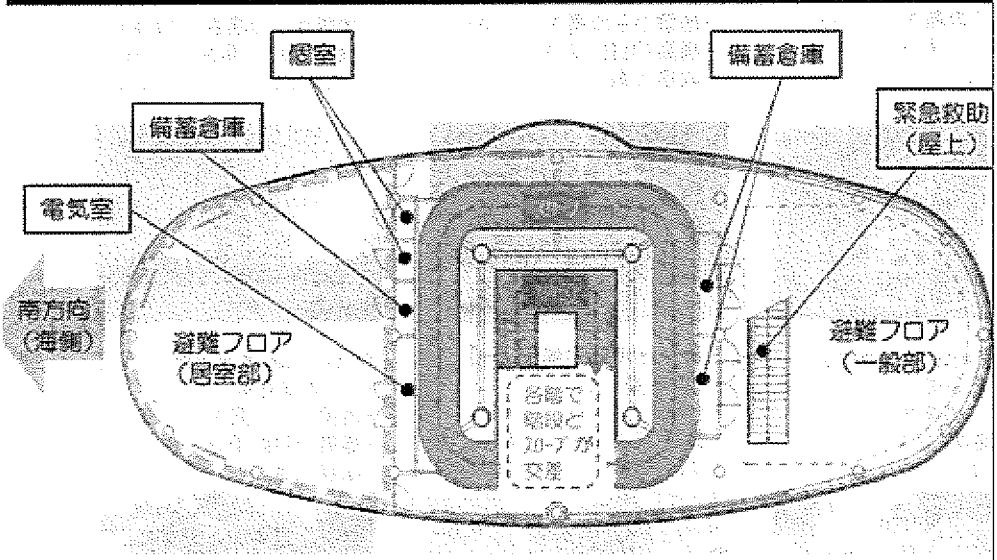




※　黒潮町には、現在6基の避難タワーが建設されており、佐賀地区は、小高い山に囲まれており、周囲に6ケ所に避難階段を設けており、津波到達時間が非常に短時間のため、中心部の浜町地区に避難タワーを建設することになった。今回視察した避難タワー以外は、階段のみの昇降であり、初めて階段とスロープを採用した避難施設であり、津波高さ 18mに対応した避難フロアまでの高さ 22mは、現在、日本一の高さの避難タワーである。構造にも、津波による躯体の保護のため前側に3本の保護用鉄骨柱を設け、津波の強さに対応し、また、引き潮に対応する

ため、同じように３本の保護柱を設置しているのは特徴的である。また、津波で階段やスロープが被害にあった場合に対応するため、避難器具も設置しており、ヘリポート
も設置してある画期的な避難タワーである。
　建設費用は、５億９千万円と非常に高額であるが、
２/3が国の補助金で残り１/3が高知県の補助工事で
あるため、市町村が負担することはなかった。しかし、今後の維持管理費に対する現在のところ補助金が無いことに町としては不安を感じていると担当者は話をされた。
建設費の割合には、非常に避難人数が少数であることには驚きであり、一般的には市町村が負担する費用を高知県が負担をする対応には共感をしたいと思います。苫小牧市は、津波高さや到達時間に時間があり、これだけ大規模な施設は、必要ないと考えますが、冬季間の災害を考えると屋上に部屋が必要と考えます。

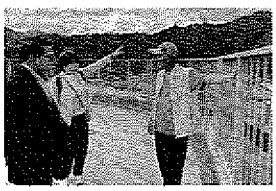
【避難フロアの間取り】



※ 避難フロアには、スポンジマットやトイレ用のテント、水、発電機等が備蓄されており、一時避難場所ということで食料品等の備蓄はありません。

地域住民による避難タワー活用術「防災かかりがま士の会」

　今回避難施設の説明と普段からの利活用をしています浜町地区「防災　かかりがま士の会」区長　川口　香氏に感謝をし、会の内容を報告説明します。



黒潮町佐賀地区には、「かかりがましい」という方言があり、「必要以上に世話を焼き」「おせっかい」という意味を持ち、防災には「かかりがましい」繋がりが必要との思いから、住民同士が助け合う防災のことを「かかりがましい防災」と表現し、佐賀地域の防災を象徴しています。
このメンバーは、地震津波防災の厳しさを日々に感じながらも、あ

	きらめずに前を向き「自分たちの命は自分で守る、行政ばかりに頼らずとも自分たちでできることは自分たちでやろう！」と避難訓練や地域内の声掛けなど様々な防災活動を地区で日々行い、会を中心に毎年春と秋の２回防災避難訓練を行っており、地区防災計画活動の新しい形として防災ツーリズムに取り組んでいます。その住民の姿勢に、見学者からの共感する感想が多く寄せられ、「かかりがま士の会」の活動は、佐賀地域の新たな魅力を外部に発信する推進力となっています。 「防災　かかりがま士の会」によるタワー案内等の活動収益は、タワーの維持管理や備蓄品・防災活動の費用に充てられています。 ※ 今回の視察を通じ、苫小牧市での避難施設の必要性と維持管理・活用方法について改めて考え方を新たにしていきたい。	
	資料名（会派保管）	香川県三豊市行政資料・令和７年度三豊市における公立夜間中学校について・三豊市公立中学校夜間学級設置基本方針・黒潮町避難タワーパンフ

会派内回覧								